

2022年度日本農業経済学会・ミニワークショップ

研究者の現在と将来  
—大学での育成と社会での仕事を考える—

東京大学  
農業・資源経済学専攻  
の事例紹介

2022年3月27日

東京大学大学院農学生命科学研究科

中嶋 康博

# 進学、就職状況

- 2011年～2020年の10年間に確認できた修士課程・博士課程の修了生130名が対象
- 修士課程修了者90名のうち、博士課程に進学したのは20名
- 博士課程修了者（一部単位取得退学者を含む）は40名であり（前記の進学者20名と必ずしも在籍期間は一致しない）、博士課程から他大学から一定数の入学者あり
- 中退者でこの数値に含まれていない者あり
- 留学生のうち、自国に戻った際にプロジェクトベースの短期雇用を繰り返している例も多く、それらは不明と記す場合あり

# 修了後の進路《2011～2020年度》

## (東京大学農業・資源経済学専攻)

( )内は女性、内数

	修士			博士		
	国内	留学生	計	国内	留学生	計
進学	13	7(2)	20(2)			
ポスドク				1	1	2
大学				10(2)	8(4)	18(6)
研究所・シンクタンク <sup>a</sup>	4(2)		4(2)	3	3(2)	6(2)
行政	9(2)	2	11(2)	2(1)	2(1)	4(2)
金融	10(2)		10(2)			
民間企業	25(8)	5(3)	30(11)	2(1) <sup>c</sup>		2(1)
団体職員 <sup>b</sup>	4(2)	1(1)	5(3)			
不明	1	9(1)	10(1)	4	4(1)	8(1)
合計	66(16)	24(7)	90(23)	22(4)	18(8)	40(12)

a: 調査会社を含む b: 大学事務職を含む c: 商社

※単位取得退学の扱い方などの関係で全員をカバーしていない

# 進学、就職状況

～あえて国内出身者だけにしぼって議論するならば～

- 修士課程・博士課程で学んだ人数は

合計75名（うち女性20名）

※修士課程から博士課程へ進学した重複分は除く

- 大学教員：10名（うち女性2名）
- 研究所・シンクタンク・調査会社：7名（うち女性2名）
- 行政：11名（うち女性3名）
- 金融：10名（うち女性2名）

※博士課程修了後に金融機関で働く例なし

- 民間企業：27名（うち女性9名）

## 研究以外では（国内出身者）

- 行政：国8名、地方2名（県、市）、国際機関1名
- 金融：銀行6名（メガ、地銀、中金）、政府系金融機関3名、生保1名
- 民間企業：メーカー（食品、化学）、商社、コンサル、流通、外食、会計、IT、人材紹介・派遣、広告、出版、建設、電力

※起業やNPOでの活動例はこれまでに記憶なし（留学生では例あり）

# 指導体制

- 研究室ごとにテキストゼミと論文指導ゼミを開講
- 非常勤講師による特別講義
- 研究科共通科目（卓越大学院制度での指定授業など）
  
- 初～中級の経済数学、計量経済学は専攻内で講義を提供
- 東京大学内の他研究科の大学院で中級のミクロ経済学、計量経済学等の講義を受講する学生が一定程度いる
- 大学院でフィールドワークの技法をあらためて学ぶ授業はない
- 学生の自主的勉強会あり
  
- 修士論文：中間報告（7月・11月）、最終報告（1月）
- 博士論文：中間報告1回、総合演習、最終審査会
  
- 環境調和国際卓越大学院制度（奨学金受給あり）

# 課題

- 3つの二重構造が存在
  - 日本人と留学生
  - 国内的課題と国際的課題
  - 研究者養成と非研究者養成
    - ※すべてに対応するには、教育・研究リソースが不足
- 雇用制度の変容への対応 ※社会的・国際的規範
  - 任期制と転職
  - 年俸制
  - 副業
  - 人事評価制度（採用時、エフォート管理）
- 研究の生産性向上
- 女性研究者養成
- 留学生の日本国内での活躍の場